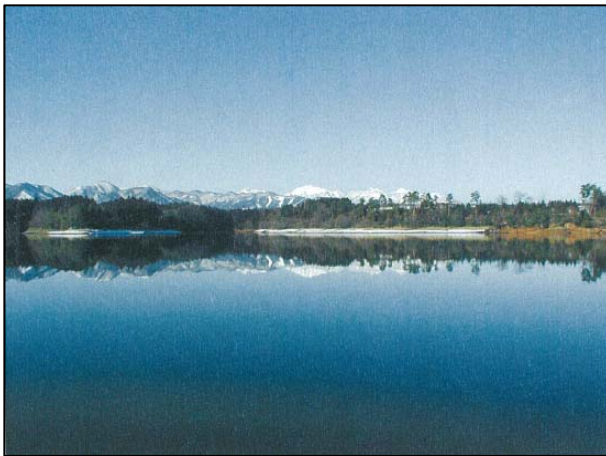
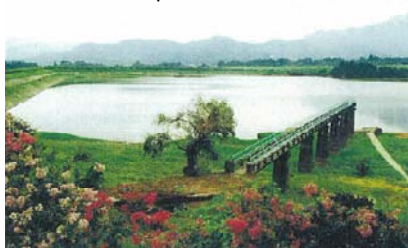


狼谷溜池

(おおかみだにいけ)



百日紅↓



水落とし↑

ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県倉吉市

□ため池の特徴

狼谷溜池は、国立公園「大山」の東すそ野にある天神野台地の開拓田を潤すために造られた貯水池で、大正11年から13年にかけて造成されました。現在も、水田150haのかんがい用水として使用されています。

澄み切った青空の下池面に逆さに映る秀峰「大山」の姿は格別に美しく、いつしか「大山池」と呼ばれ、鳥取県から、因伯の名水「ふれあいの水辺」として指定されています。

冬場には、無数の渡り鳥が静かな池面に羽を休め、飛来地として重要な役割を果たしています。また、地域に生息する「鱒(ます)」の休息・産卵を行うなど生態系ネットワークの要ともなっています。

晩秋の落水時には、放流していた鯉、鮒などを地域住民が大勢で泥まみれになって手づかみで取り合うのが恒例行事となっており、都市住民も参加して交流も行われています。

ため池への注水路の落差を利用して小電力発電所が設置されており、天神野開拓の歴史やため池の施設と共に、地元小中学生の貴重な学習教材として活用されています。また、消防活動の水源としても利用できるよう消防署と契約が取り交わされており、溜池は地域で多様な役割を担っています。

関連情報

鳥取県ホームページ

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/336476/daisenike.pdf>

大成池

(おおなるいけ)



↑アカマツ

落水イベント↓

ため池の概要

□ため池の所在地

鳥取県西伯郡伯耆町

□ため池の特徴

大成池は標高360mにあり、湧出する大山の豊富な伏流水を適正水温に温め「反当たり1俵の増収」になったと言われるほど水稻の生産安定に貢献しました。現在も200haの水田を潤し、八郷地区の多様な水田農業を支えています。

秀峰大山を望み、赤松の美林やコナラ、クヌギ等に囲まれた静観で美しい景観、水辺の環境が保持保全されており、セキレイ、ホオジロ、メジロ、カワセミ、カモ等の野鳥、様々な水棲昆虫、鯉や鱒等の淡水魚を始めとする多様な生物の生息の場となっています。

池は、食糧難による窮乏や分村の危機から地域を守るため、昭和8年に八郷村村長や丸山集落の人々が中心となり、戦時中の物資や人手不足の中、昭和22年に完成しました。

5年に1度の水抜きの際は、集落と関連企業等が連携して魚のつかみ取りが行われます。最近の「丸山大成池」落水イベントでは、ため池の歴史・役割・重要性を、集落の子ども達や来場者に伝える取り組みも行われました。

関連情報

伯耆町ホームページ

<http://www.houki-town.jp/>